

動を行うが、がれきが消防車の れていた水が無くなり、 内の水道水をまかなっている水 からホースを何本もつなげて放 高台にある配水池にくみ上げら 源地の施設をも破壊。 水を行った。しかし、 行く手をさえぎるため、 に延焼した。消防団員が消火活 を繰り返しながら、がれき伝い などへの引火による大きな爆発 からほぼ同時に火災が発生。車 山田地区では、長崎と八幡町 各地区の 津波は町 消火栓

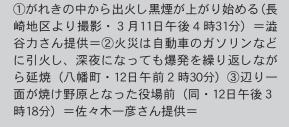
甚大な被害をもたらした。

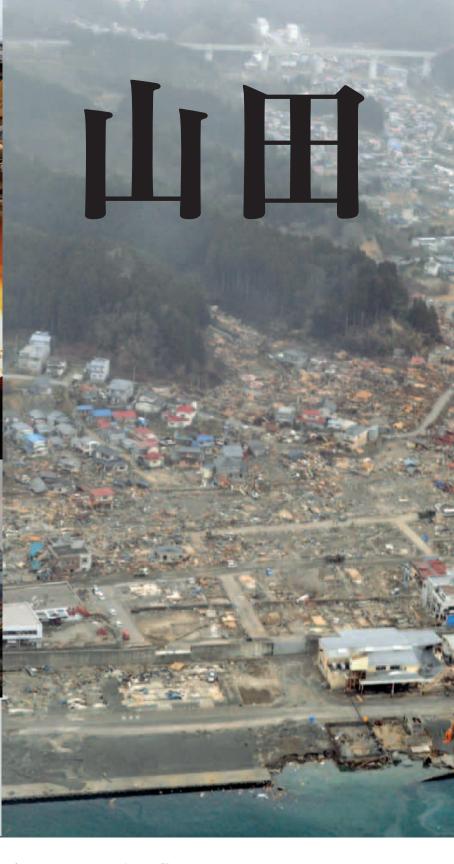
また、津波後発生した火災も

約5割にも及ぶ209鈴にも達 の市街地の面積407㍍のうち き波を何度も繰り返した。 た。その後、 なぎ倒すほど強大なものであっ 推測される。津波の力は、何ト の浜で18 は、 で824~1024、船越で1524、 んだ。津波の高さは、 波は防潮堤を超え、町へ流れ込 は5弱、マグニチュードは世界 ノもある防潮堤をいとも簡単に 、織笠、船越、田の浜、大津波の浸水面積は、大沢、 およそ30分後、大津波が襲来 平成23年3月11日14時46分、 激しい押し波と引 小谷鳥では25 沿と 大浦山









田の浜地区では、炎が民家だけではなく山林にも燃え移った。消防車が進入できないため消防度も水を補給しながら山へ向度も水を補給しながら山へ向度も水を補給しながら山へ向かった。消防団や自衛隊へリなどの懸命な消火により、大規模との懸命な消火により、大規模を加火事は免れることができた。単物の被害が3304棟(全壊20)。漁業関係では、登録漁権、半壊187棟、一部損壊1208を変が流出や損壊、養殖施設や作業が屋のほとんどが壊滅的な被害を受けた。

は徐々に収束していった。

のがれきを取り除いたりしなが 翌日も火災が続いたが、自衛隊 ため、歩いて山田高校へ逃れた。 える避難者は、自衛隊車両など 囲むように炎が迫ってきたため 収まらない。八幡町では役場を は沢水をせき止めたり防 われ、山田地区の火災は夕方に の消防車やヘリからの放水も行 ら山伝いに火災が延焼してきた 難していた住民は、長崎地区か に避難。また、山田中学校に避 により関口を通って豊間根地区 に避難していた1000人を超 保健センターや中央公民館など 火災の勢いは深夜になっても 必死の消火活動を続けた。